

第3章 環境NPOの活動とエコポリスセンターの取り組み

1. 板橋区とエコポリスセンターにおける環境行政の取り組み

(1) はじめに

板橋区環境基本計画では、良好なパートナーシップを形成していくための戦略的な事業として、環境コミュニティ活動の推進と学校を中心とした環境コミュニティ活動の展開を掲げている。これらのコミュニティ活動には、積極的な住民参加が求められており、区は、この活動の推進をしていくものである。具体的には、環境NPOへの活動支援や学校を核とした子ども達や家族そして、地域住民、事業者、環境NGOなどが、地域での活動展開を目指すものである。

エコポリスセンターは、地域と密着した環境・リサイクルの拠点として区民や事業者、環境NPOなどと連携を図り、良好な住民参加によるパートナーシップを築いていくことを重要な目的としている。

(2) 板橋の環境行政の取り組み

板橋区は、平成5年に人と環境が共生する都市を目指して「エコポリス板橋環境都市宣言」を行った。

この宣言は、環境にやさしい暮らし方や事業活動を進め、かけがえのない地球環境を子孫に引き継いでいくことを区民の責務とし、人と環境が共生する都市の実現を目指すことを宣言したものである。

また、環境の板橋として、次のとおり先進的な取り組みを行ってきた。

- ・平成7年に環境学習・リサイクルの啓発拠点としてのエコポリスセンターの開設
- ・平成10年にモデル校7校から開始した環境教育ネットワーク

の構築（現在すべての区立の小中学校とネットワーク化）

- ・平成11年に、都内の自治体で初めて ISO14001の取得
- ・平成13年に、区民・事業者と協働で開発したワインブロックの製品化など

これらの取り組みが評価され、平成16年4月26日に第13回地球環境大賞の優秀環境自治体賞の受賞を得ることとなった。また、一昨年行われた環境首都コンテストでは、全国総合7位という高い評価を得た。

（３）エコポリスセンター

エコポリスセンターは、環境保護と省資源・省エネルギー型社会（循環型社会形成）を目指して、環境学習とリサイクルを推進するための総合的環境学習・啓発施設である。

エコポリスセンターは、環境について、「知る」・「考える」・「行動する」というステップアップが図れるよう事業体系を組み立てている。

まず、「知る」ために、環境月間や3R（Reduce Reuse Recycle）月間に合わせセミナーや企画展示、地球環境祭や環境パネル展などを開催し、広く環境問題を知ってもらうことを行っている。

次に「考える」ために、板橋エコロジー講座、リーダー養成講座などワークショップを取り入れた「考える」講座の開催。

さらに「行動する」ために、こどもエコクラブやグローブプログラム、板橋環境会議など参加型・自主活動型事業を展開している。

また、エコポリスセンターは、リサイクルの総合情報センターとして修理再生する「いかげや事業」やフリーマーケットの開催、講座・教室など循環型社会の構築に向け、様々な取り組みを行っている。

エコポリスセンターは、環境・リサイクルの拠点として、年間で、次の事業展開を行っている。

エコポリスセンターの主な事業

	事業名	事業内容
環境学習事業	1 環境リサイクル講座 / 教室	
	①板橋エコロジー講座	・「くらし」の観点から身近な環境に対する理解を深める
	②子ども環境教室	・小中学生を対象に身近な環境観察・実験等を通して環境問題の理解を深める
	③環境リーダー養成講座	・地域における環境保全活動の指導者を育成する
	④夏休みエコスクール	・夏休みに環境実験教室・自然教室・工作教室等を実施する
	⑤リサイクルワークショップ	・リサイクルインストラクターによるワークショップを開催する
	⑥環境ミニ教室	・ごみ・空気の汚れ・水の汚れなどのテーマについて劇やゲーム、実験などを交えて楽しく環境問題を学ぶ体験型環境入門教室である
	⑦受託研修	・教員や保育士を対象に環境啓発を進めるリーダーを養成する
	2 環境調査・環境観察等	
	①大気汚染測定	・大気中の窒素酸化物の測定を通じて、身近な環境を考える
	②酸性雨測定	・酸性雨の測定を通じて地球規模の環境を考える
	③環境観察	・身近な環境を観察し、環境問題の理解を深めてもらう
	3 クラブ・組織づくり	
	①こどもエコクラブ	・子供たちの環境団体の組織化及び事業面での支援
	②グローブプログラム	・米国ゴア副大統領の提唱した子どもたちの地球環境調査への参加
	③板橋環境会議	・区民・企業・環境団体等の参加を得て実行委員会をつくり、板橋区の環境について様々な提言等を行う

環境学習事業	4 その他 ①環境家計簿運動 ②環境セミナー ③3 R 月間トークライブ ④地球環境祭	・環境に優しいライフスタイルを考えてもらうため、エコチェックシート等を配布する ・環境問題に関する講演会等を実施する ・3 R 月間特別展に合わせて講演会等を開催する ・地球環境に関する映像の紹介や講演会等を開催する
イベント事業	1 環境・リサイクルフェア ①エコポリスセンターまつり ②環境パネル展	・地区の桜まつりに合わせて、環境パネル展や環境遊び等を実施する ・環境月間（区役所ロビー）、区民まつり等に合わせて実施する
	2 特別展等 ①環境月間特別展 ②夏休みエコロジカル作品展 ③3 R 月間特別展 ④3 R ポスター展 ⑤3 館連携事業	・環境月間に合わせて、写真展・講演会等を実施する ・さき織りや身の回りの材料を使った作品を夏休み期間中に展示する ・3 R 月間に合わせて、写真展・講演会等を実施する ・3 R 月間に合わせて、区内小中学校から募集したリサイクルポスターの展示をする ・エコポリスセンター・熱帯環境植物館・教育科学館を結ぶスタンプラリーを実施する
工房サロン リサイクル	1 リサイクル工房（現代のいかけやさん）	・壊れた物を再生・修理し、物を大切に使うライフスタイルの浸透を図る。月・水・木の9時30分～16時30分の営業（第3月曜日休み）
	2 リサイクルサロン まえの・いたばし	・家庭で不用になった生活用品の展示・販売、不用品情報の登録・提供を行う

常設展示	1 情報展示 ①環境情報展示	・大気汚染、騒音などの常時測定データをリアルタイムで表示するとともに、水質汚染・リサイクル等の各種情報をコンピューター画面で自由に検索できる
	②アメニティ情報展示	・区民が調べた野鳥・野草・昆虫などの生息状況や、歴史・社会環境情報をコンピューター画面で自由に検索できる
	2 環境体験 ①エコロジーツアー ②リサイクルゲーム ③パソコン環境ゲーム	・体感型シミュレーションマシンにより地球生態系をめぐる旅を演出する ・ごみの分別を楽しみながら学べるリサイクルゲーム機の設置 ・パソコンで環境クイズや情報を楽しく学ぶ
支援事業	3 新技術等の紹介	・太陽電池発電装置、太陽熱集熱装置、雨水利用施設、マイクロガスタービン発電、グリーン電力証書システムの導入、ビオトープ等のエコポリスセンターの新技術の紹介
	1 団体支援事業	・エコポリスセンター施設の提供、学習機材の貸し出し、交換箱の設置、その他環境活動団体への支援
	2 意見交換会	・ボランティア団体等との定期的な意見交換会を開催している
	3 情報提供事業	・環境情報提供（環境情報資料室の利用）、リサイクル情報提供、国際環境情報の提供、インターネット利用の提供、エコポリスセンターニュースの発行等

2. 住民参加と環境コミュニティ活動

エコポリスセンターは、住民参加と環境コミュニティ活動の推進のために、「地域による環境コミュニティ活動の推進」と「学校を中心としたコミュニティ活動の推進」の2つの側面から取り組んでいる。

(1) 地域による環境コミュニティ活動の推進

環境コミュニティ活動の推進は、地域生活の中で、様々な環境問題に対する興味や関心ごとに人と人の関わりをつくり、活動グループづくりを図っていくことが重要である。

(ア) 住民による環境NPO活動

エコポリスセンターでは、平成7年の開設以来、エコロジー講座・リーダー養成講座の開催や環境観察会などを通して環境NPOや環境について行動できる人づくりに取り組んでいる。

共通した興味や関心、問題意識を起し、こうした取り組みから、自主的活動団体（NPO）が育っていくことを目指している。

a. 講座・リーダー養成等から育つNPO活動

エコロジー講座→リーダー養成講座→マスター講座→資格の取得と段階的に講座のレベルを上げていき、意識の高い区民を育て、区民がリーダーとなり、またグループ活動等を実施していくことをねらいとしている。

[板橋エコロジー講座（入門者向け講座）]

講義、実習、ワークショップ、見学の一連の講座で入門者を対象とした講座。

4～10月：4回（1回2～3日間）

[リーダー養成講座]

ファシリテーターなど指導者を育成する講座。

5月～9月（1回2～3日間）延べ3日間「アクティビティの作成・実習」

[マスター講座（上級者向け講座）]

エコロジー講座・リーダー養成講座の修了者向けの講座

1月～3月（1回2～3日間）延べ5日間「環境学習プログラムの作成」

[資格取得講座]

アメリカで行われているプログラムで資格取得を目的とした講座。プロジェクトワイルド、コーンリーダー

こうした活動により、エコポリスセンターの講座等を受講し、これがきっかけで自主活動を行っている団体は、次のとおりである。

講座・リーダー養成等から生まれたNPO活動団体

名 称	活 動 内 容
ぼんぷ	環境について学び、知り、生活を見直し、できることから行動するグループです。社会システムなどについて、一人ひとりのつぶやきを吸い上げて、より良い環境を目指して楽しく活動しています。現在、主な活動として、砂漠緑化のための種集め、循環型社会を考える古着回収交換会（国内外を問わず古着を送ることもある）をやっています。
生ごみリサイクルネットワーク・板橋	「“生ごみは資源”を日本の常識に」、「土からもらったものは土へ還す」を合い言葉に、市民、企業、自治体、そして学識経験者等様々な立場の方々と情報を共有しながら生ごみリサイクルの普及と有効活用の実践活動を推進しています。身近な微生物資材（米ぬかや落ち葉等）を使って楽しくリサイクルしましょう。毎月第1・3水曜日10：30～15：00、生ごみ相談実施
さき織りつるの会	さき織りは、使わなくなった布を細く裂いて、縦糸のかかっている織り機に裂き布を横糸にして織る織物です。私たちは、ボランティアで「さき織り体験コーナー」を通して、布を見直すお手伝いをしています。毎週木・土10：00～15：00エコポリスセンターB1Fで活動。

箱織り研究会	一本の紐、残り糸を織り機を使わず、身の回りにある簡易なものを利用して形にすることを目的として、2003年春に活動を始めました。活動は、毎月第1月曜日午後、エコポリスセンター内で一つの空箱・一枚の紙などを利用工夫することで織物を体験しています。
手作り広場	環境を考えながら手づくりの良さ、楽しさを広めていきたいボランティア・グループです。不用となった布を裂いて「布ぞうり作り」に取り組んでいます。毎月第2火曜日9:30～12:30、エコポリスセンターB1Fで活動しています。
リフォームクラブ	気に入っているのにサイズが合わなくなった服、思い出の着物、タンスの中で何年も眠っている服等を自分の手でよみがえらせるのがリフォームクラブです。リフォームしながら一つの物を長く大切に使うことで、ごみの減量につながります。平成10年1月に発足し、活動日は毎月第2・3水曜日10時～15時、エコポリスセンターで。
エコ紙漉きはがき 絵の会	捨てればごみとなる牛乳パック、包装紙、使用済みの封筒、チラシ広告等を再利用して、手漉きはがきを作り、水彩、クレヨン、顔彩、墨絵、押し花、ちぎり絵で、絵手紙を作る。活動は、第3火曜、10時～15時、エコポリスセンター3階環境実験室。

b. 自然・環境観察会から生まれるNPO活動

これは、環境観察会や野外観察を繰り返す行うことにより、自主的に観察会を企画・実施していくもので、趣味や興味などが共通したことから、NPO活動をしていくものである。

現在、観察会を通した自然保護活動や培われた知識を生かし、小学校等の自然観察会の講師等を行っている。

自然・環境観察会から生まれたNPO活動団体

名 称	活 動 内 容
赤塚公園自然観察会	年3～4回ほど、赤塚城址公園を中心に観察会を行っています。昔ながらの武蔵野の面影が残る崖線に沿って、里山の野草などをじっくり観察し、植物画を描くというスタイルで楽しんでいます。板橋春の七草の調査をしたり、見つけた植物から赤塚の自然の変遷を考察しています。また、野草観察会の講師としても活動しています。
城北公園・四季の会	「知っている人が先生、知りたい人が生徒」ということで、都立城北中央公園の季節の移ろいを月2回ほど、スローな気分で観察する会。都計画公園の指定を受けているフィールドの将来を思い、行政への働きかけも活発に行っています。また、野鳥観察会の講師としても活躍しています。

c. 板橋環境会議をきっかけに生まれた環境NPOの活動

名 称	活 動 内 容
いたばし水と緑の会	パートナーシップにより、自然を保全し回復するために調査・自然整備・維持管理・普及活動をしています。赤塚の森ボランティア（都立赤塚公園中心）と荒川自然回復団（荒川笹目緑地）のフィールドがあります。秋には、赤塚公園自然発見ウォーキングを開催しています。2か月毎に会報発行。年会費：有

d. 従来からの自然保護や環境NPOの活動

名 称	活 動 内 容
いたばし野鳥クラブ	いたばし野鳥クラブは、発足してから今年で17年目に入ります。春夏秋冬の自然の営みを野鳥中心に楽しんできました。また、区内の自然環境をより良くする活動も行ってきました。2003年には、クラブが制作しました16mm映画40分・区内で撮影・約7年間）「街で子育て 小さな猛きん ツミ」が、科学技術映像祭で文部科学大臣賞を受賞することができました。自然を楽しみながらの活動に、皆さんも参加してみませんか。待っています。年会費：有
区の花ニリンソウを保存する会	昭和55年10月4日にニリンソウが板橋区の花に指定されました。会はこの翌年に発足し、赤塚公園に自生するニリンソウの保護活動を進めています。春のニリンソウを見る会のほか秋の草刈り等を行っています。年会費：有
いたばし自然観察会	板橋の崖線を中心に調査活動をし、都内全域で観察会も実施しています。四葉の区画整理で周辺の緑がなくなることから設立し、活動実績は20年以上となっています。ニリンソウの保護や区画整理地区内での緑地の保全実績は多い。どなたでも入会できます。年会費：有
植物画を描く会	板橋の野草図鑑を植物画によって作りたいとの願いを持って、毎月第2土曜日に植物画を描いています。あまり省みられない野草（雑草）も精密に描き移していくと、自然の素晴らしさに驚かされます。エコポリスセンターの喫茶室「こすもす」には作品が展示してあります。

(イ) 各環境NPOの連携（板橋環境会議）

また、各NPOのパートナーシップを図るため、エコポリスセンターでは、毎年、板橋環境会議を開催している。

この板橋環境会議は、1995年9月、「環境会議シンポジウム95東京会議 in 板橋」“持続可能な社会構築のためのパートナーシップ

を求めて”をテーマに実行委員会を編成し、広く市民や関係企業や団体に参加を呼びかけ実施したことから始まった会議である。

環境問題や環境教育について分科会をつくり、ワークショップを中心に行い、1996年に「板橋環境会議」と名称を変え、「参加でつくるみんなで協力エコポリス」をテーマに環境問題の解決に向け、市民・企業・自治体等がそれぞれ異なる立場から意見を出し合い、パートナーシップを築くことを目的に実施している。

この会議は、具体的なテーマを定め、問題の解決方法等についてワークショップ形式で話し合いを実施するものである。

2001年「板橋環境会議」は、私たちの住むまち「板橋」の環境をより良いものにしていくために、何ができるか、何をしたらよいのか、それぞれの立場で意見を出し合い、具体的な解決に向けて実行していく場として位置付け実施することとし、3つの分科会で問題の解決に向けた提案等を検討している。

①ごみゼロ分科会：区民まつりウォッチングからごみゼロ板橋へ

②環境まちづくり分科会：城北中央公園からまちづくりを進める。

③総合学習分科会：学校との協力を探る。

運営は、公募により参加した区民（企業・環境NPO等、毎年約20名程度が参加）が実行委員会をつくり、企画・運営を行い、板橋区立エコポリスセンターが事務局として関わっている。

今までの環境会議の活動状況は、次のとおりである。

- ・ 1995. 9. 24 テーマ：持続可能な社会構築のためのパートナーシップを求めて（210名参加）
- ・ 1996. 9. 29 テーマ：参加でつくる・みんなで協力・エコポリス（152名参加）
- ・ 1997. 9. 21 テーマ：はじめます地球のためにできること（110名参加）
- ・ 1998. 10. 4 テーマ：ひとつのまちで環境のためにできること（159名参加）
- ・ 1999. 9. 19 テーマ：いたばし環境探検隊（83名参加）

- ・ 2000. 1. 16 テーマ：99いたばし環境会議（43名参加）
- ・ 2000. 10. 7 テーマ：先生のための地域探検
10. 21区民まつりごみウオッチング
- ・ 2001. 3. 24 テーマ：見城美枝子さん講演会・会議中間報告会
（80名参加）
- ・ 2002. 3. 29 テーマ：「ゴミゼロイベントへの提案」「総合学習に
向けた対応」「環境まちづくり」「環境な
んでも見本市」開催（268名参加）
- ・ 2003. 2. 14 テーマ：「ゴミゼロイベントへの提案」「総合学習に
向けた対応」「環境まちづくり」「第2回
環境なんでも見本市」1986名参加

平成15年度は、2月14日に板橋環境会議・環境なんでも見本市を実施し、実行委員会15名、参加者約2000名を迎え、盛大に行われた。見本市の期間中は、板橋区の企業の協力も得て、45団体の出展があった。

最近の環境会議は、具体的なテーマ別に分かれた分科会をつくり、実行委員会とあわせて10回程度のワークショップ等を重ね、1年間の分科会の検討結果を環境会議の場で報告を行っている。報告の内容については、課題の検討結果や提言を行っている。

環境会議を行うことにより、次の成果があった。

①ボランティア団体の誕生

継続的に分科会及びワークショップを積み重ねる中から、「子どもたちに化学汚染を残さない会」「ごみゼロ会」「いたばし水と緑の会」など環境ボランティア団体が誕生し、環境会議とは別に、それぞれ自主的に活動を行っている。

②環境会議の提案の実現

- ・ 小中学校において、総合学習で「まち探検」の実施。
- ・ 区の大規模イベント（区民まつり）のごみゼロを目指して、祭り実行委員会に申し入れ、発泡スチロールトレイの使用をやめ、再生紙等の皿に統一。また、ごみウオッチングによるパトロールの実施。

③学校の総合的学習の充実

環境NPOを小学校の総合学習の講師として紹介し、子どもたちの体験学習に役立っている。プールのヤゴ救出作戦、自然調べ学習の実施。

また、環境会議により、環境団体の支援と同時に環境団体相互の情報交換や横のつながりを強化しているところである。

しかし、自主的な環境NPOの活動は着実に進展しつつあるが、組織力が弱い点や組織運営の財源がないなど問題がある。組織力のある環境NPO団体や環境リーダーが育つには、長い時間を必要としている。

実際、長期的に活動できるグループづくりには、次に挙げることが重要であるといえる。

- ・きっかけづくりが必要であること。
- ・参加者同士がコミュニケーションをとれるような、気心が知れた関係になること。(時間が必要)
- ・運営の財源があること。
- ・共通な目的意識を持つこと。
- ・数人が集まりグループ化をすること。(1人では行動するまでが難しい)
- ・活動内容をしっかり受け止めてくれる対象(相手)があること。

以上の要件がそろえることが必要であり、またこのために長期間の時間を必要とする。

(2) 学校を中心としたコミュニティ活動の推進

(ア) 学校との協働

学校を中心とした環境問題への取り組みとして、今まで、エコポリスセンターでは、板橋環境会議の中で「親子環境探検隊」の計画を行ってきた。

平成11年度に、子どもと大人が一緒になった「いたばし環境探検隊」を組織し、板橋区内の5か所について歩きながら、まちなみ・自然環境等について調査をし、その結果を発見地図にした。

平成12年度には、11年度の結果を踏まえ、「先生のための地域探

検」を行い、区内の先生方19名の参加と「いたばし水と緑の会」や「いたばし野鳥クラブ」等のボランティア団体の協力により、赤塚植物園周辺を採検し、その結果を基に発表会を行うなど活動をしてきた。

(イ) 学校への関わり（総合学習への対応）

平成14年度から学校の完全週5日制が実施され、これに伴い、新しく「総合的な学習の時間」が設けられた。その中で環境学習や自然体験の取り組みの重要性が示された。

エコポリスセンターでは、こうした総合的な学習の実施を踏まえ、従来の環境教育に加え、環境ミニ教室の実施、学校への講師派遣、プールのヤゴ救出作戦など、学校への支援・相談等を行っている。

具体的な実施内容としては、

① プール清掃前のヤゴ救出作戦

夏の学校のプール清掃に合わせ、清掃前のプール内のヤゴを救出し、そのヤゴを育て観察し、生態等を学ぶ。環境NPOが講師として参加。

② 夏休み工作教室

環境をテーマにした工作教室を多くのNPOが講師となり、子ども達を指導。

③ 夏休み教員への環境教育研修

NPOの講師による「さきおり」の体験実習。

④ 自然観察の指導方法

学校の課外授業（自然教室）の事前学習のために、自然観察の仕方に詳しいNPOを講師として派遣。

（自然観察指導・昆虫教室・野鳥観察）

⑤ 体験学習のためのNPO講師の派遣調整

牛乳パックの紙漉き、さきおりの実習。

⑥ 環境NPO団体が3R推進月間などエコポリスセンターのイベントに参加し体験コーナーなど授業を実施。

3. 今後の課題

エコポリスセンターは、地域と密着した環境・リサイクルの拠点として区民や事業者、環境NPOなどと連携を図り、良好な住民参加によるパートナーシップを築いていくことを重要な目的としている。

新たに環境教育推進法の施行など、社会状況が変化する中で、今後は、次の課題の検討をしていく必要がある。

- ・環境教育推進法に係る取り組みを先進的に着手。
- ・区民・企業・NPO団体が環境問題の具体的な解決に向けた取り組みを提案していく場とシステムの構築。
- ・新たな環境NPOの誕生を図るとともに、活動支援の工夫。
- ・学校の総合学習への対応など、学校・行政・環境NPOとの協働を推進。